

学習者用デジタル教科書を使用した個別学習

学校名：壬生町立壬生小学校
教科書：Junior Sunshine

学年：第6学年
技能：話すこと・聞くこと

ここがポイント

学習者用デジタル教科書

① 学習者用デジタル教科書で単語の発音チェック

→ 児童が学習者用デジタル教科書で単語の発音等を確認する時間を設定した。

② 学習者用デジタル教科書でフレーズの言い方チェック

→ 分からないフレーズは、学習者用デジタル教科書の朗読機能を使用して練習する時間を設定した。

③ 学習者用デジタル教科書で教材の内容理解

→ 授業内のLet's watch and thinkについては、個人で聞き取る時間を設けた。止めて聞いたり繰り返し聞いたりし、個人のペースで取り組んで内容を理解できる時間を確保した。

実際の目標

なりたい職業とその理由を聞き取ることができる。

指導上の留意点

単語やフレーズを確認するときには、小さな声でも声に出して練習することを伝える。

実際の場面

① 単語の発音チェック

→ 各自で練習したい単語を聞いて、発音の練習をした。

② フレーズの言い方チェック

→ 分からないフレーズを確認することで、この後の様々なやり取りの言い方の復習にもつながった。

③ 教材の内容理解

→ 個人で聞く時間を設けることで、何度も繰り返し聞く児童、速さを変えて聞く児童、止めながら聞く児童の姿が見られた。個人のペースで何度も聞くことができるため、ほとんどの児童が大まかな内容を把握することができた。

成果と課題

【成果】

- 全体の確認時間を取らなくても、それぞれが練習したい単語やフレーズに焦点を当てて練習する時間をとることができた。
- 「Let's watch and think」の内容を個別で聞く時間をとることで、全体で聞くよりも内容の理解度は高まった。

【課題】

- ▲ 声に出して練習するということに恥ずかしさを感じている児童も見受けられるので、繰り返し声に出して練習することの声掛けを行う必要があった。
- ▲ 教科書に掲載されている表現以外の内容を話す場合は、学習者用デジタル教科書で練習ができなかった。
- ▲ 間違った発音で覚える児童もいるため、机間指導しながら、正確に発音できているかを確認する必要があった。

実際の様子



デジタル教材を活用した学習内容の確認

学校名：壬生町立壬生東小学校
教科書：Junior Sunshine

学年：第6学年
技能：話すこと

英語アプリ

Google Classroom

活用の場面

① 学習者用デジタル教科書を毎単元で活用

→ 自分のペースで動画を視聴し、そこで聞き取れたことを共有する時間を設定した。

② 学習者用デジタル教科書付属のワードブックの活用

→ 常に単語の発音を確認できるよう、ワードブックを開いておくよう指示した。

③ 英会話アプリでの学習内容の復習

→ 単元末や学期末の授業で、英会話アプリで学習内容を復習する時間を確保した。

実際の目標

自信を持って、内容に即した表現で話すことができる。

指導上の留意点

- ・ 機器等の不具合が生じた際には、静かに挙手することを意識づける。
- ・ 話す活動をする際、教師が児童のつまずきを把握し、よりよい活動になるように配慮する。

実際の場面

① 学習者用デジタル教科書を毎単元で活用

→ デジタル教科書の動画を視聴して、聞き取れたことをメモしたり、児童同士で分かったところや疑問に思ったところを共有したりする機会を設けることで、理解を深めることができていた。

② 学習者用デジタル教科書付属のワードブックの活用

→ ワードブックや教科書を見て、使用する単語や表現事項を確認しながら話す様子が見られた。

③ 英会話アプリを活用し、スピーキングテストを実施

→ 最初は、周りの様子を気にしている様子も見受けられたが、慣れもあり、英会話アプリに向かって自信を持って話せるようになってきた。

成果と課題

【成果】

- 英会話アプリを使用することで、客観的に児童の話す力を評価することができた。
- 児童が自分に合う取り組み方で学習を進めることができた。
- 各自、ワードブックを起動しておくことで、常に単語の発音を確認でき、英語に自信のない児童でも、自分のペースで活動に取り組むことができていた。そのため、ペア活動で、活動が滞ることが少なくなった。

【課題】

- ▲ 正答であるにも関わらず×と判定されたり、誤答に◎と判定されたりする事例が見られた。また、同じ回答であっても、児童によってAI判定の結果に差が生じる場合があった。
- ▲ 教室環境上、周囲の声や音が入ってしまうため、正確な判定ができていないことがあった。そのため、児童の座席の間隔を広く空けられる場所で行えるとよい。
- ▲ イヤホンや一人一台端末等の不具合により、英会話アプリを使用できないという問題が発生した。その場合には、機器の音声確認を行ったり、機器の再起動をしたりという対応をした。

実際の様子



学習者用デジタル教科書を活用した聞き取り練習

学校名 : 壬生町立睦小学校
教科書 : Junior Sunshine

学年 : 6年
技能 : 聞くこと

Speaking Quest
(英語アプリ)

Challenge English
(英語アプリ)

Booklet

ここがポイント👉

- ① レッソンの導入時に、「Let's Watch and Think1」を学習者用デジタル教科書を活用して視聴する時間を設定する。
- ② 聞きとった内容をワークシートに記入してまとめる。
- ③ 黒板に内容をまとめながら、各自答えをチェックする。

実際の目標

登場人物の会話の内容を聞き取ることができる。

指導上の留意点

与えられた時間内で分かるまで何度でも聞き返すよう指示する。

実際の場面

- ① 学習者用デジタル教科書を活用して登場人物の会話を聞く。

- ② 聞き取った内容をワークシートに記入する。

- ③ 黒板に会話内容をまとめ、ワークシートに記入する。
内容が正しいかどうか各自チェックする。

成果と課題👉

【成果】

- 根気強く何度も会話を聞き、内容を理解しようとする姿が多く見られた。
- ワークシートに積極的に聞き取った内容をまとめていた。

【課題】

- ▲ レッソンの内容に合わせてワークシートを工夫する必要がある。
- ▲ 英語アプリの効果的な使用場面や使用方法を研究していく。

実際の様子



学習者用デジタル教科書を活用した発話練習

学校名：壬生町立安塚小学校
教科書：Junior Sunshine 6

学年：第6学年
技能：話すこと

classroom

Googleスプレッドシート

Google翻訳

ここがポイント

① デジタル教科書の朗読機能の活用

教科書に出てくる表現の読み方を確認し、発音をまねて練習する。

② Wordbook・Googleスプレッドシートの活用

既習事項を復習する際、Wordbookを活用して単語の発音確認をした。また、スプレッドシートからもALTの音声を手本として聞けるようにした。

③ Google翻訳で発音チェック

言語活動で扱いたい表現をGoogle翻訳の音声翻訳を通して、正しく言えているかどうかをチェックした。

実際の目標

自信をもって、自分の考えを英語で伝えることができる。

指導上の留意点

- ・ 児童のつまづきを把握し、ALTと連携して個別に支援する。
- ・ 発話練習の際、ICTツールだけに頼らず、友達と練習したり、教師やALTの手本を直接聞いたりするなど、児童が自分に合った方法を選べるよう配慮する。

実際の場面

① 「教科書に書かれた表現の読み方が分からない」という児童は多いので、朗読機能を活用することで知りたい表現の読み方を確認し、発音練習をすることができていた。「ゆっくり」「ふつう」「はやい」と速さを選ぶことができるので、児童は各々が聞き取りやすい速さを選び、音声を聞いていた。

② Wordbookでは、カテゴリごとに英単語を確認できる。児童は英単語の発音を確認し、①で確認した表現に当てはめて繰り返し練習していた。

また、Wordbookに載っていない単語については、スプレッドシートからALTの音声を手本として聞くことができるようにし、児童は自由に自分が伝えたい内容に合わせ、表現の練習をすることができた。

③ Google翻訳の音声入力機能を活用し、①・②で練習した表現を正しく言えるかどうかを確認した。瞬時に、話した内容が英語と日本語で表示されるため、児童は「伝えたいことを英語で言えた」という実感を持つことができていた。

成果と課題

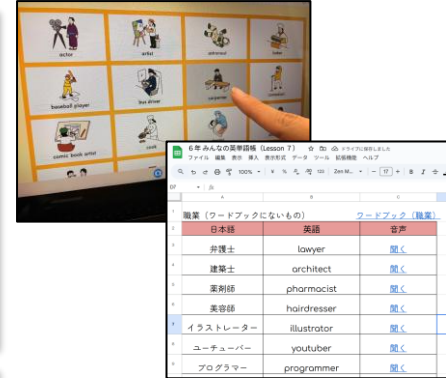
【成果】

○ デジタル教科書を中心としたICTツールの活用により、児童が各々練習しやすい方法を選択できる環境を設けることができた。手本の音声を繰り返し聞いて練習ができたので、言語活動においては自信をもって話す児童が多く見られた。

【課題】

▲ ICTツールを活用した練習により発話への自信は高まったが、言語活動では決まった表現に偏る傾向も見られた。表現を組み合わせたり、相手に応じて言い換えたりしながら、対話を広げていく指導が課題である。

実際の様子



学習者用デジタル教科書を活用した発音練習

学校名：野木町立新橋小学校
教科書：Junior Sunshine

学年：第6学年
技能：読むこと

ここがポイント👉

学習者用デジタル教科書

* 学習者用デジタル教科書を発音練習で活用

英単語の練習の際、児童が学習者用デジタル教科書で発音やアクセント等を確認する時間を設定した。

- ① 既習、新出単語にかかわらず、発音練習を行った。慣れてきたら、自分で発音してからモデルの発音を聞く方法もとっている。
【聞いてから発音】⇒【発音してから聞く】
- ② 上記の単語に関して、英文の中で使い、I like～./ I don't like～. などを使って自分の考えや気持ちを伝える。(第6学年 Lesson7では、なりたい職業を選んで、I want to be ～. を使って伝えさせた。)
- ③ Let's Listenなどの聞き取り教材を使って、shadowingをする。

実際の目標

自分で英単語を選び、読み方を確認し、練習することができる。

指導上の留意点

発音練習をする際、教師が児童それぞれのつまずきを確認する。

実際の場面

① 発音が合っていたら、ワードブックに丸を付けるようにした。全ての英単語ではなく、その後の言語活動で自分が使いたいものを選んで練習するなど、単なるドリルにならないようにした。自己選択の場面を取り入れると意欲につながる。

② ここでしっかり練習できていると、その後の言語活動にスムーズに入ることができている。ヘッドセットを着けているので、周囲の様子を気にせず発話練習している。

③ 聞き取りが得意で何度も聞く必要がない児童は、シャドーイングに挑戦した。

成果と課題👉

【成果】

- 全体で発音練習した後、難しい単語を抽出して練習すると効果があると思われる。
- 自分でカテゴリーを選び、自分の進度で繰り返し練習ができる。
- 単なる練習だけでなく、言語活動につなげていきたいと考えている。
- アンケートをとったところ、聞き取りが得意な児童は、一斉に聞き取った方がよいという結果だった。(何度も聞かなくても聞き取れるため)

【課題】

- ▲ 目的や場面設定のある練習にはなりにくい。→英会話アプリの活用につなげる。
- ▲ ALTの効果的な活用を考えていく。

実際の様子

